

ラマ島に滞在しての仕事が5月30日に終え、香港より福州へ飛んだ。飛行約1時間強。

福州は福建省の省都である。

長崎市とは友好都市の関係、それも、長崎には華僑の人々が多く住み、その殆どの出身が福建省であることに由縁する。

故に、福建省や福州のことについて知っているわけではないが、何かしら親しみを覚える。

それも、今回が、私にとっては初めての福建省、初めての福州である。

そこに、何か新しい発見がないか、と期待はしていた。

しかし、「ここもやはり中国、それも近代中国である」と実感することが大きな発見であった。

その実感の一つが、ここに撮影の写真である。

滞在ホテルの前に、池や林、野外ステージを備えた、大きな公園があった。

早朝、部屋の窓から眺めると、その芝生の緑の中に、いくつかの集団の動きが見えた。

そこで、公園まで出かけた。太極拳のグループであったのだ。

それぞれのグループで、扇子や剣の揃いの小道具、それぞれのラジカセから、胡弓や笛の伴奏曲。

共通するのは、どれも老人年輩の一团であること。

珠海でも、広州でも、上海でもみてきた朝の風物詩である。

湖面に浮かぶのは都会の高級マンション郡。

グループが三々五々と解散していく。時計をみれば7時。

太極拳の人影もまばらになり、公園にもまた静寂が蘇り、一日が始まる。

